

2020年11月9日発行（通算第497号）

世界情勢ブリーフィング

<https://guccipost.co.jp/blog/jd/>

立冬ですね。最近また少し暖かくなったように感じられましたが、今週あたりから寒くなるのでしょうか。体調管理に気をつけましょう。

先週の動き

11/1（日）

- ・トランプ大統領がミシガン州ワシントン、アイオワ州ダビューク、ノースカロライナ州ヒッコリー、ジョージア州ローム、フロリダ州マイアミで選挙集会
- ・バイデン前副大統領がペンシルバニア州フィラデルフィアで選挙集会
- ・香港警察が立法会議員4人を含む民主派の政治家7人を逮捕
- ・モルドバ大統領選挙（11月15日に決選投票）

11/2（月）

- ・トランプ大統領がノースカロライナ州ファイエットビル、ペンシルバニア州スクラントン、ミシガン州トラバース・シティ、ウィスコンシン州ケノーシャ、ミシガン州グランド・ラピッズで選挙集会
- ・バイデン前副大統領がオハイオ州クリーブランドとペンシルバニア州各地で選挙集会（ハリス副大統領候補が参加）
- ・テキサス州連邦地裁がヒューストンでドライブスルー方式で行われた大統領選の期日前投票を有効とする判決
- ・中国の金融当局がアリババグループ創業者の馬雲（ジャック・マー）を聴取
- ・オーストリアのウィーンのシナゴーク付近で銃撃事件（「イスラム国」が犯行声明）

11/3（火）

- ・米大統領選挙・議会選挙
- ・中国共産党が第14次5か年計画と35年までの長期目標の草案を公表
- ・アリババグループ傘下の金融会社アント・グループが11月5日に予定していた上海と香港での新規株式公開（IPO）の延期を発表
- ・ユーロ圏財務相会合（ブリュッセル）
- ・日米豪印の海上共同訓練「マラバール」（～6日）

11/4（水）

- ・トランプ大統領が大統領選について声明を発表（記者会見）
- ・バイデン前副大統領が大統領選について声明を発表（デラウェア州ウィルミントン）
- ・バイデン前副大統領が政権移行チームのサイトを立ち上げ
- ・米国がパリ協定から離脱
- ・米連邦地裁がTikTok利用禁止措置について審理
- ・FOMC（～5日）

11/5（木）

- ・トランプ大統領が大統領選について声明を発表（記者会見、3大ネットワークは中継打ち切り）
- ・トランプ陣営が大統領選の集計の差止め等を求める訴えをミシガン州、ペンシルバニア州、ジョージア州で提起
- ・バイデン前副大統領が大統領選について演説（デラウェア州ウィルミントン）

11/6（金）

- ・トランプ大統領が大統領選について声明を発表
- ・バイデン前副大統領が大統領選について声明を発表（デラウェア州ウィルミントン）
- ・メドウズ大統領首席補佐官が11月4日の新型コロナウイルスの検査結果が陽性だったとの報道
- ・トランプ政権がUSAIDのグリック副長官を解任（後任はバーサ同長官代行）

●バイデンの勝利宣言

米大統領選は11月3日に投票日を迎え、同日夜から集計が始まりました。それから4日が経過し、11月7日（現地時間）になったところで、ついにバイデン前大統領が過半数の選挙人を獲得し、勝利することが確実になりました。

11月5日までの状況は先週、以下の記事でお伝えしました。

- ・「米大統領選速報／続報」（11/5・6）
<https://guccipost.co.jp/blog/jd/?p=8899>
<https://guccipost.co.jp/blog/jd/?p=8906>

その後、バイデンはペンシルバニアとジョージアで優位に立ち、7日午前にペンシルバニアとネバダで勝利したとABCをはじめとするメディアが一斉に報じました。これによりバイデンは279の選挙人を獲得する見込みになったわけです（最小過半数は270）。

これを受けてバイデンは勝利宣言のツイート。菅首相含む各国首脳から祝意のメッセージが寄せられました。
<https://twitter.com/JDWorldBriefing/status/1325231757977743360>
<https://twitter.com/JDWorldBriefing/status/1325232186744737792>

そして当日夜、バイデンは勝利宣言の演説を地元デラウェア州ウィルミントンで行いました。
<https://twitter.com/JoeBiden/status/1325247969780621317>

一方、トランプ大統領は、当確の報道が出たときにゴルフをしていましたが、「選挙はまだ終わっていない」との声明を发出。

<https://twitter.com/JDWorldBriefing/status/1325233370100461568>
<https://twitter.com/JDWorldBriefing/status/1325231894342955008>

ジュリアーニらトランプ陣営の弁護団は記者会見を開き、郵便投票の不正を主張して訴訟を開始すると宣言しました。なお、すでにトランプ陣営は大統領選の集計の差止め等を求める訴えをミシガン州、ペンシルバニア州、ジョージア州で提起しています。

<https://twitter.com/JDWorldBriefing/status/1325241276199890944>

また、トランプ陣営はすでにウィスコンシンで再集計を申立てています。ジョージアとペンシルバニアも再集計プロセスに入ると予想されます。

本日は、議会選も含め、まず現状と私の事前予想がどこまで正確だったかについて説明します（※メルマガに限定）。今後の見通しについては、今週追って解説します。

激戦州の状況は以下のとおりです（括弧内の数字は選挙人の数、「※」はトランプが前回勝利した州、データはNYタイムズ）。私の予想があたったところには「○」、外れたところには「×」をつけています（アリゾ

ナ、ジョージア、ノースカロライナは確定していませんが、現時点での開票結果に従い、前2者はバイデン、後者はトランプ勝利と想定）。

・メイン (2)	バイデン。
・ニューハンプシャー (4)	バイデン。
・ミネソタ (11)	バイデン。
※ミシガン (16)	バイデン。
※ウィスコンシン (10)	バイデン。
※ペンシルバニア (20)	バイデン。
・ネバダ (6)	バイデン。
※アリゾナ (11)	開票率97%でバイデン+0.56 (APとFoxは当確)。
※ネブラスカ第2区 (1)	バイデン。
※フロリダ (29)	トランプ×
※ノースカロライナ (15)	開票率98%でトランプ+1.4×
※メイン第2区 (1)	トランプ。
※ジョージア (16)	開票率98%でバイデン+0.19×
※オハイオ (18)	トランプ。
※アイオワ (6)	トランプ。
※テキサス (38)	トランプ。

フロリダは外れましたが、ここはバイデンとトランプどちらに転んでもおかしくない接戦が予想されたところ
です。まあこれは仕方ないでしょう。

ノースカロライナとジョージアはそれぞれ逆の結果になりましたが、これは驚きでした。なぜなら、民主党に
とってノースカロライナよりはジョージアの方が難度が高く、あり得るのは、ノースカロライナのみ、あるい
は両州を獲る、そのいずれかと推測されたからです。これは今後の米国政治・社会を考える上で示唆に富む結
果だったと思います。

それ以外の州は予想どおりでした。ブルーウォール（ミシガン、ウィスコンシン、ペンシルバニア）を取り返
し、南部（ノースカロライナまたはジョージア）と西部（アリゾナ）まで勢力を広げる、という点では間違っ
ていなかったといえます。

選挙人獲得数については、（アリゾナ、ジョージア、ノースカロライナはまだ確定していませんが、とりあえ
ず前述のとおり仮定すれば）事前予想のバイデン334、トランプ204に対し、バイデン306、トランプ232にな
ります。これも大きくは異なっていません。

また、シナリオについては、ミシガン、ウィスコンシン、ペンシルバニアで勝利すれば、「数日で決着する」
と書いていました。決着は4日後だったので、これはそのとおりでした。この点も含めて、及第点の結果とい
えるのではないのでしょうか。

次に上院選です。激戦区の状況は以下のとおりです。

・ 共和党現職	
・ アリゾナ	民主党（マーク・ケリー）。
・ コロラド	民主党（ジョン・ヒッケンルーパー）。
・ メイン	共和党（スーザン・コリンズ）×
・ ノースカロライナ	共和党優勢（未確定）（トム・ティリス）×
・ ジョージア	決選投票（デビッド・パーデュー対ジョン・オソフ）。
・ ジョージア補選	決選投票（ラファエル・ワーノック対ケリー・ロフラー）。
・ アイオワ	共和党（ジョニ・アーンスト）。
・ モンタナ	共和党（スティーブ・デインズ）。
・ サウスカロライナ	共和党（リンゼー・グラム）。

- ・カンザス 共和党（ロジャー・マーシャル）。
- ・アラスカ 共和党優勢（未確定）（ダン・サリバン）。
- ・テキサス 共和党（ジョン・コーニン）。

- ・民主党現職
- ・アラバマ 共和党（トミー・タバービル）。
- ・ミシガン 民主党（ゲイリー・ピーターズ）。
- ・ミネソタ 民主党（ティナ・スミス）。

メインと（おそらく）ノースカロライナが外れました。ジョージアは決選投票の予想まではあっています。ここはとりあえず留保としましょう。

議席は、事前予想の民主党51、共和党49に対し、民主党48～50、共和党50～52となります。来年1月5日の決選投票を見ないと分かりませんが、民主党が過半数（バイデンが大統領になるので50）を押さえる可能性は五分五分というところですが、こちらは民主党が過半数を獲るという見通しが厳しくなっているので、及第点とはいえないかもしれません。

最後に下院選です。こちらは現時点で民主党が215、共和党が196、未決定が27です。民主党は過半数を維持しますが、議席は減る見通しです。下院については、私は議席増を予想していました。過半数を維持する限りでは当たっていますが、議席減までは予想できませんでした。

ということで、バイデン勝利、上院は民主党の議席増、下院は過半数維持というところまでは予想したとおりです。トランプの善戦も、ある程度は予想されたことなので、驚きとまではいえません。しかし、上下両院における共和党の強さは明らかに予想を超えていました。

では事前予想のベースとなった世論調査はどこまで正しかったといえるのか。有権者はどのように動いたのか。この点はまだ不明確な部分が多いですが、とりあえず現時点で言えることを別稿でお伝えします。

また、トランプはバイデンの勝利を認めていません。再集計と訴訟の見通しについても解説します。

 今週の動き

11/8（日）
 ・ミャンマー総選挙

11/9（月）
 ・米韓外相会談（ワシントンDC）
 ・WHO年次総会（オンライン会議、～14日）

11/10（火）
 ・インドのビハール州議会選挙の結果発表

11/11（水）
 ・中国の「独身の日」ネット通販セール
 ・ベテランズデー

11/12（木）
 ・米連邦地裁が米商務省によるTikTokの米国内での提供禁止に対する暫定差止め命令
 ・ASEAN首脳会議関連会合（～15日、オンライン会議）

●ミャンマー総選挙

アウンサン・スーチー国家顧問兼外相が率いるNLD政権の5年間の統治に対する国民の審判が下されることとなります。ポイントを解説します（※メルマガに限定）。

ミャンマーの19年度の経済成長率は6.6%と新興国の中でも比較的高く、海外直接投資も堅調ですが、この国の経済水準とポテンシャルからすると物足りなさが残ります。NLD政権の経済政策もスピード感に欠け、企業の評価は高くありません。

政治面でも、少数民族武装勢力との和平が進まず、ロヒンギャ問題では欧米からのプレッシャーを受けています。NLD政権に国民は高い期待を寄せていたこともあり、前回15年の選挙のような大勝は望みにくい状況です。

しかし、少数民族武装勢力との衝突が生じているラカイン、シャン、カチン、カイン、モンの各州とバゴー管区の一部の選挙区では選挙の実施が中止されました。これらの地域では、少数民族政党の支持拡大が予想されていたので、その選挙の中止はNLDにとって有利に働きます。

また、コロナによって、集会や街頭での選挙活動も困難になっています。これも、メディアに取り上げられる機会が多い与党NLDに有利に働きます。

国民の多くはNLD政権の統治に満足はしていないとみられますが、アウンサン・スーチーの人気は健在です。こうした状況から、NLDがかろうじて3分の2の議席を維持できる可能性が高くなったと考えられます（軍人議員の議席があるため、過半数ではなく3分の2を押さえなければ、議会の過半数を確保できない）。

あとがき

米民主党のアベンジャーズが集結してトランプ大統領に対抗するという加工動画がありました。

https://twitter.com/_gh0stn/status/1324801623781122048

これはすごいですね。よくここまで民主党のオールスターとアベンジャーズを組み合わせたものだと感心します。個人的にはハンター・バイデンの姿（1:34）を見たとき「やられた・・・」と思いました（笑）。

ここまでは笑うばかりでしたが、サンダースが「これで全員そろったか？」と聞くと、なんとジョン・ルイス、ジョン・マケイン、RBGが現れました。ここは胸が熱くなりましたね。なぜかショーン・コネリーも紛れ込んでいますが・・・（笑）。

なお、私はマーベル映画はいくつか見っていますが、『アベンジャーズ』シリーズはちゃんと見ていません。興味はあるのですが、「マーベル・シネマティック・ユニバース（MCU）」の巨大さを考えると（以下の記事の「あとがき」参照）、なかなか手が出ません・・・。

<https://guccipost.co.jp/blog/jd/?p=7458>

The Gucci Post (Copyright 2020 グッチーポスト株式会社)

■ Twitter <https://twitter.com/JDWorldBriefing>

■ ブログ <https://guccipost.co.jp/blog/jd/>

■ メール jd.world.briefing@gmail.com

■ 編集部 inquire@guccipost.co.jp

※本メルマガの内容は、筆者の個人的な見解であり、他のいかなる個人の見解を代表ないし代理するものではなく、他の個人または組織がその内容に対して責任を負うことはありません。